

動物機能形態学

(授業概要)

地球上の生物は多様であり、それぞれが生息環境に合わせて様々な進化を遂げてきた。
飼育員が動物の健康をまもっていくためには、動物の体のしくみを知ることが必要不可欠である。
この授業では、哺乳類と鳥類の体のしくみ（機能と形態）を学ぶ。

科	生命科学科	きょういん 教員	笹野 聡美
コース	ワイルドアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1年次	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35 時間

目標

1 学期

動物の体のつくりを学ぶ。

哺乳類の骨、筋肉、皮膚や爪、角などの構造と役割を理解し、飼育管理に生かせるようになる。

2 学期

哺乳類の感覚器や内臓、鳥類の体のしくみを学び、飼育管理に生かせるようになる。

授業計画

1 学期

- 1 回 講師の自己紹介。この授業の目的と目標
- 2 回 哺乳類の骨、全身骨格
- 3 回 哺乳類の骨、各論
- 4 回 哺乳類の骨、関節
- 5 回 消化器、歯の構造
- 6 回 様々な歯、食性による歯の違い
- 7 回 嚥下のしくみ
- 8 回 食道の構造と役割
- 9 回 胃の構造と役割
- 10 回 試験対策
- 11 回 前期試験
- 12 回 試験解説
- 13 回 様々な胃
- 14 回 腸の構造と役割

2 学期

- 15 回 様々な腸
- 16 回 前胃発酵動物と後腸発酵動物
- 17 回 草食動物の食性 ブラウザーとグレーザー
- 18 回 植物の栄養
- 19 回 肉食動物の食べ物

- 20 回 肝臓と膵臓の構造と役割
- 21 回 本当の消化
- 22 回 泌尿器の構造、動物はなぜ尿を出すのか
- 23 回 泌尿器、腎臓の構造
- 24 回 尿が出るまで
- 25 回 後期試験
- 26 回 試験の解説
- 27 回 肺の構造と役割
- 28 回 なぜ血液が必要か
- 29 回 感覚器、眼の構造と動物の特殊な視覚
- 30 回 感覚器、耳の構造と動物の特殊な聴覚
- 31 回 感覚器、鼻の構造と動物の特殊な嗅覚
- 32 回 鳥類の体、飛行するための構造
- 33 回 鳥類の体、羽根の構造、役割、色
- 34 回 鳥類の体、内臓
- 35 回 鳥類の感覚器

授業の方法

パワーポイントによるオンデマンド授業および対面授業

教材

特にありません。

評価の方法

期末試験80%、出席率 20%

授業外での学習方法

動物や生物系の書籍を読んで下さい。動物園や博物館を見学して下さい。

実務経験と授業科目の関係

経歴：秋吉台自然動物公園獣医師、グアテマラ野生動物保護センター獣医師。現在：往診専門獣医療開業（対象動物：観光施設展示動物園・愛玩動物、保護犬・野生動物）、野生動物医学会会員、野生動物保全繁殖研究会理事。 出版（翻訳、監訳）：「野生動物医学」「インコとオウムの行動学」「鳥類の人工孵化と育雛」

アナウンス演習Ⅰ

(授業概要)

動物園や自然ガイド、観光牧場に必要となる接客の際に必要な話し方や、立ち振る舞いを身に付ける。

科	生命科学科	教員	細見、竹内
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×2コマ

目標

- 1 学期・表現する楽しさを知る。
- ・表情の豊かさを身に付ける。
 - ・正しい姿勢で美しく歩けるようになる。
 - ・正しい発声ができるようになる。
- 2 学期・発想力を豊かにする。
- ・簡単な生き物解説が出来るようになる。
 - ・対面接客ができるようになる。

授業計画

1 学期

- 1 回 自己紹介, アイスブレイク, 講義について
- 2 回 表情の練習、履歴書写真の撮り方について、喜怒哀楽の表現方法について
- 3 回 正しい姿勢、歩き方について
- 4 回 腹式呼吸、自分の出しやすい音の高さについて
- 5 回 身体を使った表現 ～ジェスチャーゲーム～
- 6 回 ショーパフォーマーとは
- 7 回 好きなもの、嫌いなものについて 準備
- 8 回 好きなもの、嫌いなもの 発表
- 9 回 好きなもの嫌いなもの 発表
- 10 回 接客演習 準備
- 11 回 接客演習 本番 1
- 12 回 接客演習 本番 2
- 13 回 接客演習 本番 3 夏休み課題 早口言葉 滑舌練習
- 14 回 後期目標 早口言葉 発表 1
- 15 回 後期の目標発表 早口言葉 発表 2
- 16 回 後期の目標発表 早口言葉 発表 3
- 17 回 後期の目標発表 早口言葉 発表 4

2 学期

- 18回 自然物の発表 1
- 19回 自然物の発表 2
- 20回 自然物の発表 3
- 21回 ショー分析 1
- 24回 ショー分析 2
- 25回 解説分析 1
- 26回 解説分析 2
- 27回 飼育棟動物解説準備 1
- 28回 飼育棟動物解説準備 2
- 29回 飼育棟動物解説準備 3
- 30回 ヒーローインタビュー エチュード 1
- 31回 ヒーローインタビュー エチュード 2
- 32回 自己PRについて
- 33回 自己PRについて 発表試験 1
- 34回 自己PRについて 発表試験 2
- 35回 自己PRについて 発表試験 3

授業の方法

講義、問題演習、実演、グループワーク、プレゼン

教材

動画、生体、自然物など

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

動物園や水族館に行ったり、youtube で動画を見て、ショーや解説の研究を行う

実務経験と授業科目の関係

あり

基礎健康管理学 I

(授業概要)

犬や猫など身近な動物を中心に日常的な健康管理や予防について学ぶ

科	生命科学科	教員	石原 昌代
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35 時間

目標

1 学期

犬や猫の日常的な健康管理と予防について学び、正常時と異常時の違いを理解する

2 学期

引き続き健康学と予防について学び、またそれらを基礎とし、代表的な疾患について理解する

授業計画

- 1 回 自己紹介 授業について
- 2 回 散歩、運動
- 3 回 排尿、排便
- 4 回 全身の手入れ①
- 5 回 全身の手入れ②
- 6 回 全身の手入れ③
- 7 回 希釈の計算方法
- 8 回 熱中症について①
- 9 回 熱中症について②
- 10 回 犬の登録
- 11 回 狂犬病とは
- 12 回 狂犬病とは
- 13 回 混合ワクチン
- 14 回 混合ワクチン
- 15 回 口腔衛生

16 回	口腔衛生
17 回	口腔衛生
18 回	前期試験
19 回	前期試験返却
20 回	避妊去勢
21 回	避妊去勢
22 回	フィラリア予防①
23 回	フィラリア予防②
24 回	フィラリア予防③
25 回	外部内部寄生虫①
26 回	外部内部寄生虫②
27 回	外部内部寄生虫③
28 回	外部内部寄生虫④
29 回	外部内部寄生虫⑤
30 回	外部内部寄生虫⑥
31 回	同行避難
32 回	同行避難
33 回	同行避難
34 回	後期試験
35 回	後期試験返却

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
座学、グループワーク
きょうざい 教材
作成資料（コンパニオンアニマルの新健康管理学より）
ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん 期末試験80%、出席率 20%
じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
なし
じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
動物看護師

コンピューター実習

(授業概要)

本講義では、Microsoft Word を用いたビジネス文書の作成、Excel を用いた表計算とグラフ作成、PowerPoint を用いた基本的なプレゼンテーションスライドの作成が行えるようになることを目的とする。

科	生命科学科，動物看護師学科	教員	近澤優子
コース	DGT, SML, TEP, WLD, VN1	教員の実務経験	×
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

- 1 学期
- タッチタイピングが行える。
- Microsoft Word を使用して、基本的なビジネス文書の作成が行える。
- 2 学期
- Microsoft Excel を使用して、数式・関数を用いた計算と、グラフの作成が行える。
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションスライドの作成が行える。

授業計画

- 1 回 授業概要
- 2 回 タイピング基礎
- 3 回 文字の入力と変換
- 4 回 Word 基本操作，画面構成
- 5 回 ページ設定，文章入力，文字の編集
- 6 回 フォントの設定，段落設定，箇条書き
- 7 回 課題（1）
- 8 回 グラフィック機能（1）；ワードアート，画像
- 9 回 グラフィック機能（2）；文字の効果，ページ罫線
- 10 回 グラフィック機能（3）；図形，SmartArt
- 11 回 表の作成と編集（1）
- 12 回 表の作成と編集（2）
- 13 回 表の作成と編集（3）
- 14 回 課題（2）
- 15 回 前期復習
- 16 回 Word 確認テスト
- 17 回 Word 確認テスト振り返り（前期最終）

18回	後期授業概要, Excel 基本操作, 画面構成 (後期初回)
19回	データの入力と編集, オートフィル
20回	数式の入力
21回	関数 (1); SUM, AVERAGE
22回	関数 (2); COUNT, MAX, MIN
23回	絶対参照と相対参照
24回	表の書式設定, 表示形式
25回	表の編集
26回	グラフ (1); 円グラフ
27回	グラフ (2); 棒グラフ
28回	Excel 復習
29回	Excel 確認テスト
30回	Excel 確認テスト振り返り
31回	PowerPoint 基本操作, 画面構成, 新規プレゼンテーションの作成
32回	テーマ設定, テキストの入力と編集, 箇条書き, フォントの設定
33回	図形, 画像, アニメーション
34回	個人課題 (1)
35回	個人課題 (2), 後期振り返り (後期最終)

じゅぎょう ほうほう 授 業 の 方 法
コンピューター演習

きょうざい 教 材
よくわかる Word2016 & Excel2016, FOM 出版

ひょうか ほうほう 評 価 の 方 法
授業中の取り組み態度 10%, 課題提出 40%, テスト 50%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授 業 外 で の 学 習 方 法
予習 1h, 復習 1h

じつむけいけん じゅぎょうか もく かんけい 実 務 経 験 と 授 業 科 目 の 関 係

エキゾチックアニマル I

(授業概要)

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要4種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	生命科学科	教員	金田・田中
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35×2

目標

- 1 学期
- エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得する。ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。
- 2 学期
- ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

授業計画

- 1 回
- エキゾチックアニマルとは
- 2 回
- ペットの適性について
- 3 回
- ハムスターについて（分類、歴史）
- 4 回
- ハムスターについて（体の特徴）
- 5 回
- ハムスターについて（体の特徴）
- 6 回
- ハムスターについて（生理的な特徴）
- 7 回
- ハムスターについて（飼育方法）
- 8 回
- ハムスターについて（繁殖）
- 9 回
- ハムスターについて（病気）
- 10 回
- ハムスターについて（病気）
- 11 回
- ウサギについて（分類・歴史）
- 12 回
- ウサギについて（体の特徴）
- 13 回
- ウサギについて（体の特徴）
- 14 回
- 試験対策

15 回	前期試験
16 回	前期試験
17 回	ウサギについて（生理的な特徴）
18 回	ウサギについて（飼育方法）
19 回	ウサギについて（病気）
20 回	ウサギについて（病気）
21 回	モルモットについて（分類・歴史）
22 回	モルモットについて（体の特徴）
23 回	モルモットについて（生理的な特徴）
24 回	モルモットについて（飼育方法・繁殖）
25 回	モルモットについて（繁殖）
26 回	モルモットについて（病気）
27 回	モルモットについて（病気）
28 回	フェレットについて（分類・歴史）
29 回	フェレットについて（体の特徴）
30 回	フェレットについて（生理的な特徴）
31 回	フェレットについて（飼育方法）
32 回	試験対策
33 回	後期試験
34 回	後期試験
35 回	フェレットについて（病気）

授業の方法
講義

教材
カラーアトラス エキゾチックアニマル

評価の方法
期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法
1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自まとめなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

あり

生体管理概論実習

(授業概要)

イベント準備や特別講義を行い、就職の視野を広めたりインターンシップに向けての準備を行う

科	生命科学科	教員	金田・竹内
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35×4

目標

- 1、学校の仕組みやインターンシップを理解し、積極的に行動できるようになる。
- 2、積極的にイベントに取り組み、協調性を養う

授業計画

- 1回 学生要覧説明、年間スケジュール確認
- 2回 面談
- 3回 特別講義
- 4回 面談
- 5回 面談
- 6回 インターンシップ説明会
- 7回 面談
- 8回 面談
- 9回 面談
- 10回 スポーツ大会準備
- 11回 スポーツ大会準備
- 12回 試験について説明
- 13回 長期休暇事前説明
- 14回 イベント企画・準備
- 15回 イベント企画・準備
- 16回 イベント企画・準備
- 17回 特別講義
- 18回 イベント企画・準備
- 19回 就職活動事前準備

20 回	企業説明会事前説明
21 回	面談
22 回	面談
23 回	面談
24 回	ゼミ説明
25 回	ゼミ説明
26 回	イベント企画・準備
27 回	イベント企画・準備
28 回	イベント企画・準備
29 回	イベント企画・準備
30 回	イベント企画・準備
31 回	後期試験説明会
32 回	イベント企画・準備
33 回	イベント企画・準備
34 回	一年振り返り、2 年生事前説明
35 回	自主学習日（課題）

講義・イベント準備

きょうざい 教材

ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん じゅぎょうたいど 期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり

公衆衛生学 1

(授業概要)

近年環境破壊等の人間活動を原因とする新興感染症・再興感染症の台頭が地球規模で問題となっており、これらの多くが人獣共通感染症である。人、動物、環境の健康は一体として守るべきもの（ワンヘルス）との考え方を基本として、人と動物の健康保持・推進のため人獣共通感染症について学習する。さらに、動物由来の食品等が原因となることが多い食中毒についても学習する。

科	生命科学科	教員	花木
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

- 1 学期
- 公衆衛生の基本となる国民衛生の動向、感染症の基本的知識（疫学、病原体、感染、防疫等）について学ぶ。
- 人獣共通感染症のうち、細菌を原因とするものについて学ぶ。
- 2 学期
- 人獣共通感染症のうち、寄生虫、ウイルス、真菌を原因とするものについて学ぶ。
- 感染症を媒介することが多い衛生害虫（蚊、ダニ、ノミ等）について学ぶ。
- 食中毒と食品による危害防止を目的とする食品衛生法について学ぶ。

授業計画

- 1 学期
- 1 回 公衆衛生とは
- 2 回 国民衛生の動向
- 3 回 疫学と疾病予防
- 4 回 感染症の基礎 1（病原体）
- 5 回 感染症の基礎 2（感染、予防、免疫）
- 6 回 感染症の基礎 3（バイオハザード等）
- 7 回 人獣共通感染症
- 8 回 細菌性人獣共通感染症 1
- 9 回 細菌性人獣共通感染症 2
- 10 回 細菌性人獣共通感染症 3
- 11 回 細菌性人獣共通感染症 4
- 12 回 細菌性人獣共通感染症 5
- 13 回 寄生虫性人獣共通感染症 1
- 14 回 寄生虫性人獣共通感染症 2
- 15 回 前期総括

16 回	前期試験
17 回	寄生虫性人獣共通感染症 3
18 回	寄生虫性人獣共通感染症 4
19 回	寄生虫性人獣共通感染症 5
20 回	ウイルス性人獣共通感染症 1
21 回	ウイルス性人獣共通感染症 2
22 回	ウイルス性人獣共通感染症 3
23 回	ウイルス性人獣共通感染症 4
24 回	ウイルス性人獣共通感染症 5
25 回	狂犬病
26 回	真菌性人獣共通感染症
27 回	公衆衛生上重要な衛生昆虫
28 回	新興感染症・再興感染症 1
29 回	新興感染症・再興感染症 2
30 回	食品衛生法の概要
31 回	食中毒 1
32 回	食中毒 2
33 回	食中毒 3
34 回	後期試験
35 回	後期試験返却 / 公衆衛生に関する現状と課題

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
自作のテキスト、パワーポイントによる講義

きょうざい 教材
なし

ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん 期末試験 80%、授業態度 20%

じゅぎょうが い がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
参考書、厚生労働省等公的機関のウェブサイト等により知識や最新情報を習得する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり（公衆衛生獣医師として保健所等で公衆衛生行政に従事）

動物園学Ⅰ

(授業概要)

動物園の歴史、社会的役割（種の保存、環境教育、調査研究、娯楽）、動物園・水族館の展示手法、動物飼育にあたっての基礎知識（動物福祉、エンリッチメントなど）を理解する

科	生命科学科	教員	花木久実子
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35

目標

- 1 学期
- 西欧と日本の動物園の歴史について学習する 現在の日本の動物園の現状と課題について考える
動物園における種の保存について学習する
- 2 学期
- 動物園での飼育係、獣医師の役割について学習する 動物福祉、エンリッチメントについて学習する
動物園での動物管理の方法について学習する

授業計画

- 1 学期
- 1 回

動物園の存在意義
- 2 回

動物園の飼育動物
- 3 回

西欧の動物園の歴史
- 4 回

DVD シェーンブルン動物園（前半）
- 5 回

DVD シェーンブルン動物園（後半）
- 6 回

日本の動物園の歴史
- 7 回

DVD 明日は動物園へ行こう
- 8 回

日本の動物園の歴史（王子動物園）
- 9 回

動物園の課題
- 10 回

動物園の生物学
- 11 回

動物園の保全生物学 1（野生動物の現状）
- 12 回

動物園の保全生物学 2（個体群管理）
- 13 回

生息域内保全と生息域外保全
- 14 回

野生復帰へのとりくみ
- 15 回

前期総括
- 16 回

前期試験
- 17 回

試験解答と解説

2 学期

- 18 回 野生復帰へのとりくみ2 (DVD パンダ山へ帰る)
- 19 回 動物園の飼育施設と飼育管理
- 20 回 動物園の展示
- 21 回 DVD チューリッヒ動物園 (前半)
- 22 回 DVD チューリッヒ動物園 (後半)
- 23 回 動物園の獣医
- 24 回 動物園の飼育係 1
- 25 回 動物園の飼育係 2
- 26 回 DVD 沼津市深海水族館
- 27 回 個体管理と記録管理
- 28 回 動物園の動物福祉
- 29 回 動物福祉とエンリッチメント
- 30 回 DVD シンガポール動物園 (前半)
- 31 回 DVD シンガポール動物園 (後半)
- 32 回 後期総括
- 33 回 後期試験
- 34 回 試験解答と解説
- 35 回 動物福祉 DVD

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

テキスト、パワーポイントを使用した講義及び DVD の視聴

きょうざい
教材

テキスト、DVD

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

身近な動物園や水族館へ行き、授業内容を深める

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

動物園副園長及び動物園獣医師としての実務経験を踏まえて授業を行う

動物学習心理学

（授業概要）

近年動物園などではハズバンドリー行動のトレーニングが脚光を帯び、下手をすると動物のトレーニング＝ハズバンドリー行動のトレーニングとみなされる傾向がある。その一方で動物飼育の基本である安全管理などがおろそかになりがちである。ひとつの理由としては新人の教育プログラムが殆ど充実されておらず、旧態全とした徒弟性が実行されていたり、あやまった精神論が横行していたりしていることがあげられる。本授業ではまず業界にプロとして参入して始めの3～4年の間に獲得しなければならない、そして運用できなければならない後術とその背景となる理論について学ぶ。

端的に言えば初級～中級めでのジュニア・トレーナーが獲得し、運用せねばならないのはオペラント条件付けにおける正の強化（動物の特定の行動に対する生起頻度や動機水準を、報酬を与えることで高く保つ）と、正の強化の原理を全うするために必要なブリッジ（レスポナント条件付けにおける条件刺激）と、トラブル・シューティング・問題対処法としてのLRSとタイムアウトである。

同時に学生たちには学ぶ態度と具体的目的と達成すべき目標を持てるよう指導していく。その中で“No”と言える飼育者・トレーナーになり、自分の考えや意見を明確にし、相手にそれを正しく伝えられるような人間になってもらいたい。

科	生命科学科	教員	山本 聡
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×1コマ

目標
前期はハズバンドリーの概念・目的を正しく認識し、① ハズバンドリーとハズバンドリー行動の違いを正しく述べられるようになる。② 正の強化（報酬を与える事）の機能と目的、なぜブリッジ（条件刺激）が必要か、多様なブリッジを使いこなすことの重要性を必要十分な範囲で述べられるようになる。後期は① LRSとタイムアウトの目的とやり方を述べられるようになる。② 動物の行動マネジメントでは、動物の自主性を尊重し、動機水準を高く保つこと、そして予測が大事であることを理解し、そのうえでなぜ脱感作が重要になるかを述べられるようになる。明確な論理でものごとを説明し、相手に伝えられるようになる。自分の考えや意見をはっきりと言え、物事に常に疑問と興味を持つようになる。

授業計画
1回 オリエンテーション（授業の組み立て、進め方などの説明）。
2回 行動を変容させるとは。動物園の機能。動物飼育技術を野生動物の保全に活かす。
3回 アニマル・ファーストとは。動物飼育に関わる人間の責任・義務とは。
4回 水族館の4つの機能。動物医療の現状と行政。
5回 古典的条件付けとは。ブリッジ刺激の性質・機能・必要十分条件。
6回 安全管理とはPC,SPC,FCトレーニングとは。ヒトはキリンになれない。
7回 パーソナル・スペース、縄ばり、生活圏、それぞれの性質と違い。

- 8回 強化とは、生得性と学習性の違い。
- 9回 ブリッジの性質と機能。正の強化子と報酬の関係、選好テストについて。
- 10回 無条件刺激と無条件反応とは何か。条件反応と強化。
- 11回 サインは弁別性刺激（未来）、ブリッジは条件刺激（過去）であること。
- 12回 三項随伴性とは何か。メンテナンス・トレーニングとは。
- 13回 ブリッジの確立。学習と行動の変容。
- 14回 連続強化と間欠強化。強化の基準とトレーナーの一貫性。
- 15回 不定率強化と動機水準。強化
- 16回 動物の自主性の尊重。選択の自由とは。
- 17回 前期のまとめと試験対策
- 18回 前期試験。
- 19回 前期試験の返却と正答解説
- 20回 後期スタート 3種類の問題行動。動物の心の病。
- 21回 ローレル・ブライトマンのプレゼンテーション（動画）。精神薬とは。
- 22回 罰を使えない理由。オペラント条件付けの半分は使えないこと。
- 23回 LRS の意味と使い方。
- 24回 動物に反応しないことの重要性。タイムアウトの意味と使い方。
- 25回 嫌悪刺激に対する脱感作には3種類ある。予防としての脱感作。
- 26回 脱感作のやり方。
- 27回 ドバイのペンギンのトレーニング(動画)と動物の行動生態。
- 28回 強化の基準とポイント、行動の分解。
- 29回 ターゲットの種類と使い方。
- 30回 ステップ・バイ・ステップの考え方。
- 31回 動物の行動マネジメントにおける予測性と非予測性。
- 32回 なぜ、動物の行動マネジメントに「やり直し」「呼び戻し」は使えないか。
- 33回 試験前対策
- 34回 後期試験
- 35回 試験返却、正答解説

授業の方法

基本的に毎月2回は対面授業で、それ以外はオンデマンド形式の授業で行う。講義中心。

教材

特に無いが、そのほか随時、必用に応じて学生に紹介する。

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

毎回の授業中にとったメモを基に、良く分からなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめノートを作成する。授業において指定された動画を Google で検索し視聴する。

実務経験と授業科目の関係

あり：専門は比較認知学、行動生態学、海洋哺乳類学、動物の行動マネジメント。ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所および同大学海洋生物研究所・海洋哺乳類プログラムで研究員兼トレーナーを務める。特に前者ではザトウクジラ生態とハンドウイルカの認知機能の研究に携わり、後者では海洋哺乳類の知覚能力の実験研究と健康管理に携わる。日本では沖縄海洋研究所、あわしまマリンパークの飼育顧問を務め、南知多ビーチランドで飼育・研究アドバイザーを務める。国際海洋動物トレーナー協会会員。

家畜学 I

(授業概要)

人間生活を支えている家畜の役割と動向、家畜の生理生態、飼料の生産と利用を学ぶ

科	生命科学科	教員	金田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	35

目標

1 学期
家畜動物とはどのように人とつながっているのか、社会的役割はどのようになっているのかを理解する。
家畜動物であるウシおよびブタについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

2 学期
家畜動物であるブタおよびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

授業計画

- 1 回 家畜動物の定義
- 2 回 ウシの概要について①
- 3 回 ウシの概要について②、ウシの体の構造について①
- 4 回 ウシの体の構造について②
- 5 回 ウシの体の構造について③
- 6 回 ウシの品種について、ウシの飼育について①
- 7 回 ウシの飼育について②
- 8 回 ウシの飼育について③
- 9 回 ウシの疾患について①
- 1 0 回 ウシの疾病について②
- 11 回 ブタの概要について①
- 12 回 ブタの体の構造について①
- 13 回 ブタの体の構造について②
- 14 回 自主学習日（課題）
- 15 回 試験対策

16 回	(前期試験期間)
17 回	(前期試験期間)
18 回	ブタの品種について、ブタの飼育について①
19 回	ブタの飼育について②
20 回	ブタの飼育について③
21 回	ブタの疾病について①
22 回	ブタの疾病について②
23 回	ウマの概要について
24 回	ウマの体の構造について①
25 回	ウマの体の構造について②
26 回	ウマの品種について①
27 回	ウマの品種について②、ウマの飼育について①
28 回	ウマの飼育について②
29 回	ウマの飼育について③
30 回	ウマの疾病について①
31 回	ウマの疾病について②
32 回	(後期試験期間)
33 回	(後期試験期間)
34 回	ニワトリの概要について
35 回	自主学習日 (課題)

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
講義

きょうざい 教材
家畜動物の基礎 (教科書)、自作プリント

ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん 期末試験 80%、 じょうじょう 平常点 20% (しゅつせきりつ 出席率、 じゅぎょうたいど 授業態度等)

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり

生体管理概論実習

(授業概要)

飼育棟や地下水族館などにおいて、小動物や家畜動物、水生生物に関する知識を応用とした飼育実践を行う。掃除・給餌・健康 チェック・ケア・設備管理といった基礎を実施する。

科	生命科学科	教員	金田・田中・谷
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35×2

目標

- 1 学期 飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。 危険予測をおこない、常に万が一のことを考えて行動することができるようになる。 一緒に活動するメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談ができるようになる。
- 2 学期 1 学期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。

授業計画

- 1 回 生体管理についての説明
- 2 回 飼育棟管理についての説明
- 3 回 飼育棟管理および地下管理について
- 4 回 飼育棟管理および地下管理について
- 5 回 飼育実習・地下管理実習
- 6 回 飼育実習・地下管理実習
- 7 回 飼育実習・地下管理実習
- 8 回 飼育実習・地下管理実習
- 9 回 飼育実習・地下管理実習
- 10 回 飼育実習・地下管理実習
- 11 回 飼育実習・地下管理実習
- 12 回 飼育実習・地下管理実習
- 13 回 飼育実習・地下管理実習
- 14 回 飼育実習・地下管理実習
- 15 回 飼育実習・地下管理実習
- 16 回 飼育実習・地下管理実習

17回	飼育実習・地下管理実習
18回	飼育実習・地下管理実習
19回	飼育実習・地下管理実習
20回	飼育実習・地下管理実習
21回	飼育実習・地下管理実習
22回	飼育実習・地下管理実習
23回	飼育実習・地下管理実習
24回	飼育実習・地下管理実習
25回	飼育実習・地下管理実習
26回	飼育実習・地下管理実習
27回	飼育実習・地下管理実習
28回	飼育実習・地下管理実習
29回	飼育実習・地下管理実習
30回	飼育実習・地下管理実習
31回	飼育実習・地下管理実習
32回	飼育実習・地下管理実習
33回	飼育実習・地下管理実習
34回	飼育実習・地下管理実習
35回	飼育実習・地下管理実習

講義・生体管理実践

きょうざい 教材
自作プリント、教科書

ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん じゅぎょうたいど 期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり

両生爬虫類学 I

(授業概要)

両生類と爬虫類は、世界中に広く分布し、生態学的な役割が重要であり、近年でもペットとして飼われる傾向も上がっている。また、両生爬虫類は経済、医療、社会文化など様々な価値があり、人間との関係性も従来から深く築いている。本授業では、生態学を視座として、両生爬虫類における動物学的特徴、生息地や保全状況などの基礎知識を知り、人間との関係性について理解し、最終的に娯楽として、基礎的な両生類・爬虫類の飼い方を学ぶ。

科	生命科学科	きょういん 教員	潘 之甫
コース	ワイルドアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1 年次	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35 時間

目標

1 学期

両生類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

両生類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

両生類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

2 学期

爬虫類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

爬虫類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

爬虫類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

授業計画

1 学期

1 回 オリエンテーション、本講義について

2 回 両生類の特徴

3 回 両生類の分類、多様性 1

4 回 両生類の分類、多様性 2

5 回 両生類の行動生態

6 回 両生類の調査方法

7 回 両生類の保全現状

8 回 両生類の様々な価値

9 回 両生爬虫類の変温特性について

10 回 両生類の飼育環境・飼育方法

11 回 爬虫類の特徴（有鱗目）

- 12回 爬虫類の分類（有鱗目）
13回 爬虫類の多様性（有鱗目）、試験対策1

2 学期

- 14回 試験対策2
15回 前期試験
16回 試験返却
17回 両生爬虫類の進化について1
18回 両生爬虫類の進化について2
19回 爬虫類の特徴（カメ目）
20回 爬虫類の分類（カメ目）
21回 爬虫類の多様性（カメ目）
22回 爬虫類の特徴（ワニ目）
23回 爬虫類の分類（ワニ目）
24回 爬虫類の多様性（ワニ目）
25回 爬虫類の調査方法
26回 爬虫類の保全現状（日本）
27回 爬虫類の保全にできること
28回 爬虫類の生態系サービスについて
29回 爬虫類の飼育環境・飼育方法（トカゲ・ヘビ）
30回 爬虫類の飼育環境・飼育方法（カメ）
31回 これまでの振り返り、試験対策1
32回 試験対策2
33回 後期試験
34回 試験フィードバック
35回 次年度に向ける準備、全体振り返り

授業の方法

講義、演習

教材

両生類・爬虫類のふしぎ（サイエンス・アイ新書 84）
Amphibians and reptiles (Naturalists' Handbooks Book 31) (English Edition)
※必要に応じて参考資料を配布する。

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
台湾・台北市立木柵動物園保全研究センターでの実務経験。日本環境教育学会会員兼国際交流委員会委員。

昆虫学Ⅰ

(授業概要)

昆虫類は地球の幅広い環境に適応しているが、その優れた能力から我々が学ぶことは非常に多く、人類が豊かな生活をしていく上で「昆虫学」という科学分野は必要不可欠である。本授業ではまず、昆虫学に関わる幅広い知識を学習する。さらに、昆虫を扱う文献や専門雑誌、論文についても学習し、必要な情報を調べる能力を習得する。

科	生命科学科	教員	西中
コース	ワイルドアニマル	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

- 1 学期
- 「昆虫とは何か」を説明できる。
- 昆虫の食べ物について説明できる。
- 昆虫の住む場所について説明できる。
- 2 学期
- 昆虫の擬態や飛翔、社会性昆虫について説明できる。
- 絶滅危惧種や外来種、温暖化による昆虫類の分布の変化について説明できる。
- 昆虫の分類の基礎について理解する。

授業計画

- 1 学期
- 1 回 自己紹介、アイスブレイク、講義について
- 2 回 昆虫とは
- 3 回 昆虫と人との関わり
- 4 回 昆虫の体のつくり①
- 5 回 昆虫の体のつくり②
- 6 回 昆虫の運動能力①
- 7 回 課題（昆虫の運動能力について）
- 8 回 昆虫の運動能力②
- 9 回 昆虫の交信
- 10 回 昆虫の生殖
- 11 回 昆虫の食性について①
- 12 回 昆虫の食性について②
- 13 回 寄生者について

2 学期

- 14 回 前期試験対策
- 15 回 前期試験
- 16 回 前期試験フィードバック
- 17 回 水生昆虫①
- 18 回 水生昆虫②
- 19 回 海洋島の昆虫
- 20 回 擬態をする昆虫①
- 21 回 擬態をする昆虫②
- 22 回 昆虫の飛翔①
- 23 回 昆虫の飛翔②
- 24 回 社会性の昆虫①
- 25 回 社会性の昆虫②
- 26 回 益虫と害虫
- 27 回 分子情報による系統推定
- 28 回 希少な昆虫について
- 29 回 外来種の昆虫たち
- 30 回 冬季課題発表①
- 31 回 冬季課題発表②
- 32 回 試験対策
- 33 回 後期試験
- 34 回 後期試験フィードバック
- 35 回 まとめ

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、グループワーク

きょうざい
教材

必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度・しゅっせきりつ 出席率20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業で学んだことを復習することに加え、身近な昆虫の名前を少しでも多く覚えるよう自主的に学習する。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

大阪府立大学大学院生命科学研究科 元客員研究員。箕面公園昆虫館 元スタッフ。万博記念公園自然観察学
習館 元指導員。関西大学 元非常勤講師。

陸上実習

(授業概要)

様々な運動競技を通して、校外実習や就職時の際に必要な基礎体力の維持・向上を図る。

科	生命科学科	教員	竹内紘平
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	70

目標

- 1 学期
- 毎授業、校舎外周の持久走や様々な運動競技を実施し、校外実習や研修旅行および就職時の際に必要な基礎体力を身につける
- 2 学期
- 毎授業、校舎外周の持久走や様々な運動競技を実施し、校外実習や研修旅行および就職時の際に必要な基礎体力を身につける。

授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 3回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 4回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 5回 スポーツ大会競技のトレーニング
- 6回 スポーツ大会競技のトレーニング
- 7回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 8回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 9回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 10回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 11回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 12回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 13回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 14回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 15回 (前期試験期間)

16回	(前期試験期間)
17回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
18回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
19回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
20回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
21回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
22回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
23回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
24回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
25回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
26回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
27回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
28回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
29回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
30回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
31回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
32回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
33回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
34回	ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
35回	(後期試験期間)

じゅぎょうほうほう 授業の方法
実習

きょうざい 教材
なし

ひょうかほうほう 評価の方法
きまつしけん 期末試験 80%、平常点 20% (しゅつせきりつ 出席率、じゅぎょうたいど 授業態度等)

じゅぎょうがいがくしゅうほうほう 授業外での学習方法
自宅での体力向上のトレーニングを行う。

じつむけいけん 実務経験と	じゅぎょうかもく 授業科目の	かんけい 関係
------------------	-------------------	------------

あり

ドッグトレーニング概論

(授業概要)

人と犬とのより良い共生生活に必要な家庭犬としてのしつけやマナーについて学びます。
犬のトレーニングを通して動物への行動の教え方を学びます。

科	生命科学科	きょういん 教 員	釘宮
コース	ワイルドアニマル	きょういん　じつむけいけん 教 員 の 実 務 経 験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35 × 2 コマ

もくひょう
目 標

1 学期

家畜化された犬の歴史を学び犬種に対する知識を深めます。
犬種による特性と行動、学習の仕方について学びます。
人間や人間社会に慣れるために仔犬期に何を行わないといけないうかが学びます。
実技【・リードの付け外し・ケージへの入れ方・アイコンタクト・ターゲットタッチ】

2 学期

犬のボディシグナルを学ぶことで犬の意思や気持ちを理解することができます。
犬のストレスの原因と解消の仕方を学ぶことができます。
実技【・お座り、伏せ、立て・ヒールポジション・待て】

じゅぎょうけいかく
授 業 計 画

1 学期

- 1 回　犬の進化と家畜化
- 2 回　犬の気質
- 3 回　犬の散歩
- 4 回　家庭犬のトレーニング　実技①
- 5 回　犬種について
- 6 回　家庭犬のトレーニング　実技②
- 7 回　家庭犬のトレーニング　実技③
- 8 回　脳と行動の関係
- 9 回　仔犬の社会化
- 10 回　家庭犬のトレーニング　実技④
- 11 回　社会的階級制度
- 12 回　家庭犬のトレーニング　実技⑤
- 13 回　ハンドリングテストリハーサル
- 14 回　ハンドリングテスト
- 15 回　家庭犬のトレーニング　実技⑥

16回	筆記テスト
17回	筆記テスト返却
2 学期	
18回	犬の言葉/ボディシグナル(1)
19回	家庭犬のトレーニング 実技⑦
20回	犬の言葉/ボディシグナル(2)
21回	家庭犬のトレーニング 実技⑧
22回	社会的闘争の解決(1)
23回	家庭犬のトレーニング 実技⑨
24回	社会的闘争の解決(2)
25回	家庭犬のトレーニング 実技⑩
26回	犬のストレス
27回	家庭犬のトレーニング 実技⑪
28回	カーミングシグナル(1)
29回	家庭犬のトレーニング 実技⑫
30回	カーミングシグナル(2)
31回	家庭犬のトレーニング 実技⑬
32回	個人空間・咬む犬
33回	ハンドリングテストリハーサル
34回	ハンドリングテスト
35回	筆記テスト返却

じゅぎょう ほうほう 授 業 の 方 法
講義/実習

きょうざい 教 材
犬のしつけ方教室 テリーライアン著

ひょうか ほうほう 評 価 の 方 法
・ 筆記テスト+実技テスト 80% ・ 20%授業毎に記入する実習記録

じゅぎょうが い がくしゅうほうほう 授 業 外 で の 学 習 方 法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と 授 業 科 目 の 関 係
あり

ビジネスマナー

(授業概要)

前期においてはインターンシップに備え履歴書・挨拶状・お礼状が一人で書けるようになる事。
後期については今後の就職活動を見据えて、電話対応・席次・敬語などの基本的なビジネスマナーが一人で実践できるようになること。

科	生命科学科	教員	荻野 将士
コース	DOG,TEP,WLD	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

履歴書・挨拶状・お礼状が一人で書けるようになる

後期

就職活動を見据え、基本のビジネスマナーが一人で実践できるようになる

授業計画

前期

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 校舎見学/受付の利用方法/校内でのエレベータの使い方
- 3 回 履歴書の書き方①(個人情報の書き方について)
- 4 回 履歴書の書き方②(学歴/職歴)
- 5 回 履歴書の書き方③(自己紹介書)
- 6 回 履歴書の書き方④(自己紹介書)
- 7 回 挨拶状の書き方①
- 8 回 挨拶状の書き方②
- 9 回 お礼状の書き方①
- 10 回 お礼状の書き方②
- 11 回 期末課題実施①(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 12 回 期末課題実施②(履歴書・挨拶状・お礼状)

後期

- 13 回 期末課題実施③(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 14 回 期末課題実施④(履歴書・挨拶状・お礼状)
- 15 回 前期期末課題確認
- 16 回 期末課題フィードバック
- 17 回 席次①

18回 席次②(実践)

2学期

19回 電話対応①

20回 電話対応②(実践)

21回 電話対応③(実践)

22回 ビジネスメール①

23回 ビジネスメール②(署名作成)

24回 名刺交換①

25回 名刺交換②(実践)

26回 封筒の送り方①

27回 封筒の送り方②(実践)

28回 面接マナー①

29回 面接マナー②

30回 敬語について①

31回 敬語について②

32回 後期期末試験対策

33回 後期期末試験対策

34回 後期期末試験実施

35回 試験返却、解説

授業の方法

講義/問題演習/実践

教材

資料配布

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

ビジネスマナーに関する書籍/参考動画の閲覧

実務経験と授業科目の関係

○

人間形成概論

(授業概要)

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。
心身ともに健康な生活を送るために必要なヘルスリテラシーを身につける。

科	生命科学科、動物看護学科	教員	校長：中野美和子
コース	DGT, TEP, SML, AQR, WLD, VN1	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35単位

目標

1 学期

人間の身体と心の関係、人間関係の基本である自己概念について考える。次いで、対人認知に関わる理論と実際を学び、考える。

2 学期

基礎的なコミュニケーションの概略を学び、次いで集団での行動、心理について学び、集団の一員として働き方、コーチングを含めた成人教育について学び、考える。

健康についてのリテラシー、生活習慣病の予防について学び、職場でのストレスへの対処力を身につけ、健康で有意義な人生を送る一助とする。

授業計画

1 学期

- 1回 アイスブレイクを兼ねた講師の自己紹介、人間の身体と心の関係
- 2回 自律神経とストレスの関係、自律神経の整え方
- 3回 自己認識・評価、リフレーミング
- 4回 自分を大事にする、self-compassion
- 5回 自尊感情 (self-esteem)、自己主張 assertive
- 6回 対人感受性、心の理論、
- 7回 印象形成、対人認知とその歪み
- 8～10回 対人認知の歪み：ステレオタイプ、偏見、透明性錯覚、現状維持バイアスなど
- 11回 試験対策、
- 12回 試験、あるいはレポート、
- 13回 試験のフィードバック

2 学期

- 14～15回 コミュニケーションの概略、不適切表現
- 16回 内集団、内集団ひいき、集団圧力、同調、傍観者効果
- 17回 集団、集団浅慮、集団心理～群集心理、社会的手抜き

- 18～19 回 リーダーシップ、チームで仕事をするについて
- 20～22 回 成人教育、コーチングとフォローアップ
- 23 回 ヘルスリテラシー、日本人の寿命と主な死因の現況、日本の健康政策
- 24～28 回 生活習慣病の概要とその予防：がん、循環器疾患・高血圧、糖尿病・脂質異常、COPD
- 29 回 飲酒、依存症、歯科疾患の概況と予防、
- 30～31 回 睡眠、疲労、メンタルヘルス
- 32 回 試験対策、
- 33 回 試験、レポート、
- 34 回 試験、レポートのフィードバック
- 35 回 感情処理、ストレス、ストレス対処

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、問題についてのレポートと討論、グループワーク

きょうざい
教材

適切な教科書がないため、試験対策時に講義内容をまとめたプリントを配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験・レポート提出 90%、じゅぎょうたいど 授業態度10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

自分自身の経験を考察するレポートを書く。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物生態学Ⅰ

(授業概要)

動物園の飼育者は、飼育対象の動物以外に餌生物や飼育環境下に生息する多くの動物の知識が求められる。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義では昆虫からは乳類、植物など幅広く紹介しながら、動物の生態を解説する。

科	生命科学科	きょういん 教 員	佐崎
コース	ワイルドアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教 員 の実務経験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年次	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

もくひょう
目 標

- 1 学期
- ・ 生物分類技能検定 4 級の合格
- 2 学期
- ・ 生物分類技能検定 4 級の合格
 - ・ 自然環境下での生態を理解したうえで、飼育管理ができるようになる。
 - ・ 飼育動物にストレスを与えないような、環境エンリッチメントを考えることができるようになる。

じゅぎょうけいかく
授 業 計 画

- 1 回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2 回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3 回 生物の系統①（原核生物、原生生物とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 4 回 生物の系統②（菌界、植物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 5 回 生物の系統③（植物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 6 回 生物の系統④（動物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 7 回 生物の系統⑤（動物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 8 回 植物のスケッチの基本（葉脈、花の特徴）
- 9 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説①
- 10 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説②
- 11 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説③

12回 生物分類 4 級 過去問練習、解説④

13回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑤

14回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑥

15回 前期試験

16回 前期試験の振り返り

夏休み中（2023 年度は 8/13～9/30）に生物分類技能検定 4 級を受験

17回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑦

18回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑧

19回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑨

20回 生物と環境①（作用：ベルクマンの法則）

21回 生物と環境②（作用：アレンの法則）

22回 生物と環境③（反作用）

23回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）

24回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）

25回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）

26回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）

27回 本試験テスト対策①（過去問の振り返り、確認）

28回 本試験テスト対策②（過去問の振り返り、確認）

29回 本試験の解答と解説

30回 擬態と擬装について（種内競争：眼状紋、制服擬態）

31回 擬態と擬装について（偽物型擬態、攻撃擬態）

32回 擬態と擬装について（猛毒型擬態）

33回 異種間との関係（共生：相利共生、片利共生、片害）

34回 異種間との関係（中立、寄生）、生態系における異種間との種間関係の意義

35回 後期試験

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

具体例を用いて講義する

きょうざい 教材

生物分類技能検定 4 級の過去問、生物図表

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、出席率 20%
--

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
授業だけではなく、身近な自然、生物に関心を持って観察する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
生物分類技能検定をもっている

動物関連法規Ⅰ

(授業概要)

狂犬病予防法、動物愛護法を中心に家庭で飼育または動物に関わる仕事に就く上で知っておくべき各種動物に関する法律について学ぶ。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	35 コマ

目標

1 学期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

2 学期

動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1 回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2 回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3 回 狂犬病予防法（1）狂犬病とは その 1
- 4 回 狂犬病予防法（2）狂犬病とは その 2
- 5 回 狂犬病予防法（3）狂犬病清浄国・地域について
- 6 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その 1 法の概要、目的
- 7 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その 2 対象動物、輸入禁止動物（感染症法）
- 8 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その 3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度
- 9 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その 4 罰則など
- 10 回 動物が亡くなった場合（1）動物や動物の死体の法的立場

- 11 回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12 回 前期試験
- 13 回 前期試験返却・解説
- 14 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その 1
- 15 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その 2
- 16 回 動物愛護法（1）法律の成立背景その 1
- 17 回 動物愛護法（2）法律の成立背景その 2
- 18 回 動物愛護法（3）目的
- 19 回 動物愛護法（4）基本原則
- 20 回 動物愛護法（5）動物の飼い主の責任 その 1
- 21 回 動物愛護法（6）動物の飼い主の責任 その 2
- 22 回 動物愛護法（7）動物虐待に対する罰則 その 1
- 23 回 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 その 2
- 24 回 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 その 1
- 25 回 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 その 2
- 26 回 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 その 3
- 27 回 後期試験
- 28 回 後期試験返却、解説
- 29 回 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 その 4
- 30 回 動物愛護法（13）第 2 種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 31 回 動物愛護法（14）特定動物 その 1
- 32 回 動物愛護法（15）特定動物 その 2
- 33 回 動物愛護法（16）マイクロチップの装着
- 34 回 動物愛護法（17）自治体の役割
- 35 回 1 年総復習

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

テキスト、自作のプリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、平常点 20%（しゅっせきりつ じゅぎょうたいど
期末試験 出席率、授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

基礎生物学

(授業概要)
高校の生物の復習を基本に、身近な生物や人体について、より深く実感を持って理解する。

科	生命科学科	教員	黒川 花
コース	ドッグスペシャリストコース スモールアニマルコース アクアスペシャリストコース ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標
前期…細胞と遺伝の法則、主な臓器等について理解する。
後期…免疫の仕組み、生命の変遷、生物学の基本について学ぶ。

授業計画
1 学期
1 回 細胞の構造(1)
2 回 細胞の構造(2)
3 回 生体を構成する物質
4 回 タンパク質、酵素
5 回 動物の組織と器官
6 回 遺伝子とゲノム
7 回 遺伝、メンデルの法則(1)
8 回 遺伝、メンデルの法則(2)
9 回 いろいろな遺伝
10 回 ヒトと遺伝
11 回 恒常性、体液、循環系
12 回 循環、HB
13 回 肝臓
14 回 肝臓、腎臓
15 回 まとめ
16 回 前期試験腎臓
17 回 前期試験返却、答合わせ

後期

- 18 回 生体防御（1）
- 19 回 生体防御（2）免疫と疾病
- 20 回 ホルモン
- 21 回 神経と感覚
- 22 回 自律神経
- 23 回 まとめ
- 24 回 46億年（1）
- 25 回 46億年（2）
- 26 回 自習
- 27 回 進化と形態
- 28 回 分類
- 29 回 学名
- 30 回 系統樹。ドメイン
- 31 回 原核生物界、原生生物界
- 32 回 植物界。菌界
- 33 回 動物界
- 34 回 後期試験
- 35 回 後期試験返却、答合わせ、生きるとは

授業の方法

教材と印刷物配布

教材

浜島書店『生物図表』

評価の方法

期末試験、80%、授業態度20%

授業外での学習方法

特になし。

実務経験と授業科目の関係

自然環境保全学Ⅰ

(授業概要)

現在我々の生活は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えている。自然が再生不可能なペースで破壊され続けているのが現状である。より持続可能な社会を実現するためには、1年次は自然生態系の特性を理解することが重要である。

科	生命科学科	教員	佐崎
コース	ワイルド・アニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35

目標

- 1 学期
- 我が国の森林、土壌、河川などの現状を知って理解することが重要である。自然には微力ながら浄化する能力があるが、どのようにしてきれいになっていくかのメカニズムを理論や実例を用いながら講義をしていく予定である。
- 2 学期
- 我が国の海洋（砂浜、礫浜、干潟）やマングローブ、サンゴ礁などの生態系についても、現状と問題点に触れながら講義する。またそれらの生態系に生息する生物間の関係（種内競争、種間競争）などについて具体例を用いながら説明する。

授業計画

- 1回 日本自然（森林：原生林、人工林）
- 2回 植生遷移（一次林～極相林）、森林が持つ機能
- 3回 国有林と民有林、拡大造林（戦後）と現在の造林の実態
- 4回 土壌の構造と植物
- 5回 西表出張の為自習（自習課題配布予定）
- 6回 様々な植物（C3植物、C4植物、CAM植物）
- 7回 西表島実習 学内での事前授業①（地質、気候、文化）
- 8回 西表島実習 学内での事前授業②（植生、生物の特徴）
- 9回 西表島実習 学内での事前授業③（植生、生物の特徴）
- 10回 窒素循環のメカニズムと河川①（特徴、物理的特徴）

- 11回 窒素循環のメカニズムと河川②（特徴、物理的特徴）
- 12回 自然界での川の水質浄化メカニズム①（硝化細菌と脱窒菌の働き）
- 13回 自然界での川の水質浄化メカニズム②（硝化細菌と脱窒菌の働き）
- 14回 土壌中のフルボ酸鉄と植物、海草、海藻の関係①
- 15回 前期試験
- 16回 前期試験の振り返り
- 17回 土壌中のフルボ酸鉄と植物、海草、海藻の関係②
- 18回 海洋 潮汐とは（大潮～小潮、潮上帯～潮下帯、帯状分布）
- 19回 マングローブ林生態系（種の特徴、多様性、環境特性、現状）
- 20回 サンゴ礁生態系（種の多様性、環境特性、白化現象、オニヒトデ問題）
- 21回 干潟生態系（環境特性、渡り鳥、法律）
- 22回 砂浜、岩礁海岸、草原、砂漠の生態系
- 23回 生態系サービスとは
- 24回 生物多様性とは（遺伝子、種、生態系）
- 25回 種内競争①（自己間引き、干渉型競争：なわばり・行動圏）
- 26回 種内競争②（自己間引き、干渉型競争：なわばり・行動圏）
- 27回 種間競争①（植物間、動物間：競争、捕食、相利共生、片理共生、寄生、片害）
- 28回 種間競争②（植物間、動物間：競争、捕食、相利共生、片理共生、寄生、片害）
- 29回 健全な生態系とは
- 30回 移入種とは（移入経路、在来種への影響）
- 31回 特定外来生物とは①（在来種との関係）
- 32回 特定外来生物とは②（法律での規制）
- 33回 乱獲、過剰利用①（食料、薬、嗜好品、娯楽）
- 34回 乱獲、過剰利用②（食料、薬、嗜好品、娯楽）
- 35回 後期試験

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

実例を紹介しながら講義（プロジェクター、コンピューター）

きょうざい 教材

ビオトープ管理士2級

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、出席率 20%
--

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
本講義で学習した内容を自身でも復習して、身近な自然、生物に関心を持って観察する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
動物の生態に関する調査・研究の経験

飼育用品概論Ⅰ

(授業概要)

ペットショップ・アニマルカフェなどの施設において生体管理をする上で使用する機材また道具の基本的な使用方法を学習する。また、メーカーごとの特徴や用品のアレンジ方法なども理解する。

科	生命科学科	きょういん 教 員	山内
コース	スモールアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教 員 の実務経験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

もくひょう
目 標

- 1 学期
- ペットショップで取り扱われていることが多い小動物の飼育方法や機材の使用方を理解し、校内の生体管理において実践できるようにする。
- 2 学期
- 生体ごとの望ましいレイアウト方法を理解し、メーカーごとの特徴を理解する。

じゅぎょうけいかく
授 業 計 画

- 1 学期
- 1 回

アイスブレイク
- 2 回

小動物とはどんな生き物か（草食性）
- 3 回

小動物とはどんな生き物か（肉食・雑食性）
- 4 回

用品解説：ケージ①
- 5 回

用品解説：ケージ②
- 6 回

用品解説：隠れ家、寝床
- 7 回

用品解説：トイレ
- 8 回

用品解説：サークル、運動器具
- 9 回

用品解説：遊び道具①
- 10 回

用品解説：遊び道具②
- 11 回

用品解説：床材
- 12 回

用品解説：保冷器具
- 13 回

用品解説：保温器具
- 14 回

用品解説：メンテナンス用品①
- 15 回

用品解説：メンテナンス用品②
- 16 回

試験対策
- 17 回

前期試験
- 18 回

試験返却
- 2 学期

19回	用品解説：給水器、餌皿
20回	用品解説：牧草
21回	用品解説：フード（草食性）
22回	用品解説：フード（肉食・雑食性）
23回	用品解説：おやつ
24回	用品解説：副食①
25回	用品解説：副食②
26回	小動物の販売形態について
27回	系統とカラーについて①
28回	系統とカラーについて②
29回	系統とカラーについて③
30回	ペット保険について
31回	小動物の病気と診察
32回	ペット業界が抱える課題点
33回	試験対策
34回	後期試験
35回	試験返却

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
座学

きょうざい 教材
カラーアトラス エキゾチックアニマル

ひょうか ほうほう 評価の方法
しまつしけん じゅぎょうたいど 期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
生体管理実習での生体管理

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり